

令和7年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立大和川中学校  
令和7年4月

# 大阪市立 大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 現状と課題

すべての生徒が安心して安全に学習できる教育環境の実現を図るために数年前の大きな学校崩壊からの学校再建として「秩序構築」をテーマに1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」に取り組み、生徒が主体となる様々な教育活動で、健康でたくましく「自律する力、他者を尊重し思いやる心」の育成を「チーム大和川中学校」として進めている。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で、安心して安全に生活できる学校へと大きく変わり、令和6年度末の校内調査において、「学校のきまりや規則を守っていますか」の項目に対し、肯定的な回答がほぼ100%であった。しかし、将来の夢や希望についての目標設定についての項目では、肯定的な回答が59.8%と低く、また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」では55.5%と、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多い。基礎学力の向上までには、今一歩及んでいない。授業規律の徹底を基盤とし、前期・後期の2期制や令和5年度より取り組んでいる「国語」「数学」「英語」の全学年での習熟度別授業やチームティーチングで「ひとり一人の学びを最大限引き出す、個別最適な学びの実現」を継続して推進する。生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を感じることのできる授業づくりに全教員が取り組みながら、同時にICT活用の高度化を図り、実践的な取り組みを段階的に発展させることで、より高い「学びの主体性」の実現を目指す。それにより、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し、教師にとっても「教える喜び」につなげる。大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6:80.4%)
- 令和7年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。(R6:92.3%)
- 令和7年度末の本市調査における「学校から帰ってから。スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する生徒の割合を25%以下にする。(R6:45.4%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている自分には良いところがありますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答をする生徒の割合を50%以上にする。(R6:32.5%)
- 令和7年度末の校内調査の「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、85%以上にする。(R6.81.5%)

- 令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。(R6:51.5%)
- 令和7年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」、「朝、すっきり起きることができる」に対して、肯定的に回答をする生徒の割合をそれぞれ90%以上(R6:84%)、60%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。(R6:63%)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 年度末の本市調査において、学校から帰ってから、スマートフォンの使用時間が3時間以上使用する生徒の割合を減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6:80.4%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を60%以上にする。(昨年：52.5%)
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6.81.5%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を85%以上にする。  
(R6:81.4%)

### 3、本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 : 80.4%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の本市調査において、学校から帰ってから、スマートフォンの使用時間が3時間以上使用する生徒の割合を減少させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 : 80.4%)</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、一人ひとりの生徒情報を共有し、共通理解を深め、適切な指導を進める。</p> <p>指標：生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートを毎月実施し、検証する。年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を100%にする。</p>	
<p><b>取組内容②【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <p>指標：校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目の肯定的な回答を前年度より5ポイント向上させる。(R6 : 77.3%)</p> <p>主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。S S Wを中心としたケース会議を年3回以上行う。</p>	
<p><b>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学級活動や各教科横断での継続した防災学習に取り組む。</p> <p>指標：火災、地震、津波を想定した避難訓練を年2回以上行い、教職員を対象とした救急救命講習（AEDを含む）を年1回実施する。</p>	

<p><b>取組内容④【施策2 豊かな心の育成】</b>          全ての教育活動を通して、「人の立場にたって考え方行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p>	
<p>指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」の項目の肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。(R6: 92.3)</p>	
<p><b>取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】</b>          職業講話（1年）、職場体験（2年）、高校出前授業体験（3年）、またボランティア清掃（年1回以上）を実施する。</p>	
<p>指標：社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等）を実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を65%以上にする。(R6: 59.8%)</p>	

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【施策1】</p>	
<p>取組内容②【施策1】</p>	
<p>取組内容③【施策1】</p>	
<p>取組内容④【施策2】</p>	
<p>取組内容⑤【施策2】</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容①【施策1】</p>	
<p>取組内容②【施策1】</p>	
<p>取組内容③【施策1】</p>	
<p>取組内容④【施策2】</p>	
<p>取組内容⑤【施策2】</p>	

大阪市立大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。 (R6: 32.5%)</p> <p>○大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。 (R6: 52.5%)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。 (R6: 51.5%)</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を85%以上にする。 (R6: 81.5%)</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>各教科で単元テスト・小テストを実施し、デジタルドリル・スタディサプリ等の活用や学習の振り返りを早く短い期間で行い、学習内容の定着につなげる。</p> <p><b>指標</b>：放課後や長期休業中などを活用し、一人ひとりの理解度にあった学習支援を行う。</p>	
<p><b>取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>「数学」「英語」において、習熟度別授業やチームティーチングの充実を図る。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p><b>指標</b>：年度末の校内調査における「授業はよくわかる」に対して、肯定的な回答をそれぞれ85%以上にする。 (R6: 83.0%、73.0%)</p>	
<p><b>取組内容③【施策5 健やかな体の育成】</b></p> <p>体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。また、毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。</p> <p><b>指標</b>：全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。(大阪市平均を上回る)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>取組内容①【施策4】</b></p> <p><b>取組内容②【施策4】</b></p> <p><b>取組内容③【施策5】</b></p>	

次年度への改善点

取組内容①【施策4】

取組内容②【施策4】

取組内容③【施策5】

大阪市立大和川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p><b>【ICTの活用に関する目標】</b></p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</p> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標】</b></p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。(R6: 基準1 30% 基準2 63%)</p>	
<p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。(R6: 81.4%)</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の育成】</b></p> <p>ICTを活用した授業づくり</p> <p>指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト(1,2年生)における正答率を昨年度の大阪市平均より2ポイント向上させる。</p>	
<p><b>取組内容②【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。</p> <p>指標：第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。(R6: 基準2 63%)</p>	
<p><b>取組内容③【施策8 生涯学習の支援】</b></p> <p>朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。(図書館、図書紹介、読書感想)</p> <p>指標：本市調査における、「学校図書館貸出冊数(生徒1人当たりの年間貸出冊数)を2冊以上にする。(R6: 1.3冊)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>取組内容①【施策6】</b></p> <p><b>取組内容②【施策7】</b></p> <p><b>取組内容③【施策8】</b></p>	
次年度への改善点	
<b>取組内容①【施策6】</b>	

取組内容②【施策7】

取組内容③【施策8】

令和7（2025）年度

# 運営に関する計画

- (1) 教務部
- (2) 各教科
  - ①国語科
  - ②社会科
  - ③数学科
  - ④理科
  - ⑤音楽科
  - ⑥美術科
  - ⑦保健体育科
  - ⑧技術・家庭科
  - ⑨英語科
- (3) 生活指導部
- (4) 健康整備部
- (5) 道徳委員会
- (6) 進路委員会
- (7) 特別支援教育
- (8) ICT委員会

# 大阪市立大和川中学校

大阪市立大和川中学校

## (1) 教務部

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
C : 取り組んだが、目標を達成できなかつた D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

取組内容（指標）	達成状況
<b>①【教務】</b> 教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。  指標： ・年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、 テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統 計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読 本、視聴覚、進路等についての作業 ・上記作業についての知識の伝達	
<b>②【校務 ICT】</b> 学習者用コンテンツの理解を深め、職員全体において共有・活用を図る。  指標： ・学習者用コンテンツの活用研究 ・研修の実施（年間：3回）	
<b>③【カリキュラム調整】</b> 教育課程と行事予定について調査と調整をおこない、時間割を改善する。 学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。  指標： ・習熟度別授業・チームティーチング・学校行事を見通した時間割の立案と改善 ・授業時数確保のための時間割調整 ・次年度評価基準の作成	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点① [国語]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	
② 【言語能力の育成】 音読やスピーチ、作文の時間を年間15時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	
③ 【個に応じた学習指導】 提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	
④ 【自主学習習慣の定着】 テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	
⑤ 【個別最適化された授業の実施】 生徒の現状を把握し、個別に最適な授業を展開する。	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点② [社会]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	
② 【発信力の育成】 班活動などの協働学習を通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の3割程度確保する。	
③ 【習熟度に応じた学習指導】 定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、いずれの学年も昨年度より上昇させ対市比「1」をめざす。 (R6：現2年：0.89 現3年：0.86)	
④ 【主体的に学習に取り組む態度の育成】 デジタルドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、自主提出を基本とし、主体的に学習に取り組む習慣づくりを行う。 (自主提出であるが提出率80%以上になるようマネジメントを行う。)	
⑤ 【情報活用能力の育成】 協働学習ツールや動画教材を活用し、プレゼン作成や調べ学習を通じて情報活用能力の育成を図る。(パッケージ提供も並行して行い、インクルーシブ学習への取り組みも進める)	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点③ [数学]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げ、個に応じた学習支援を行う。 週当たりの授業時数の50%以上でチームティーチングを行い、単元のまとめなどでクラス習熟を行う。	
② 【言語力の育成】 ICT機器などを活用しつつ、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。月に1回以上、グループワークを取り入れる。	
③ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 毎時間課題を設定し、個に応じた課題も設定する。	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点④ [理科]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項を明確にさせる。 b. 基礎的な知識の小テストを小単元ごとに実施し、学力の底上げを目指す。	
② 【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	
③ 【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを単元毎に実施する。	
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や演習プリントを活用する等して単元ごとに課題として提示し、確認する。	
指標：①～③の活動を通し、授業アンケートにおける「理科が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 70%以上にする。	
現状と分析	

次年度への改善点

## (2) 教科の重点⑤ [音楽]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を定着させる。	
② 【言語力の育成】 言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	
③ 【個に応じた学習指導】 毎時間、歌唱を行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を定着させる。	
⑤ 【規律、習慣付け】 授業持ち物（教科書、アルトリコーダー、ファイル、筆記用具）を徹底して準備させ、忘れ物ゼロを目標にする。	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点⑥ [美術]

美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値のあるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを求めて自分なりの意味あるものとして表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。

評価基準 A : 目標を上回って達成した  
B : 目標どおりに達成した  
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況
① 【基礎学力の定着】 年間で作品を3点制作させる。3年間を通して計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	
② 【言語力の育成】 作品制作前の鑑賞活動や、制作後のレポート作成及び発表を行い、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	
③ 【個に応じた学習指導】 生徒に対する助言や技術的指導を丁寧に行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾いあげる。	
④ 【自主学習習慣の定着】 生徒一人ひとりの作品制作を進める中で、制作における個別の支援を充実させる。(放課後の補習時間)	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点⑦ [保健体育]

目標 :	授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。
------	--------------------------------

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが、目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

取組内容 (指標)	達成状況
<p>① 【基礎学力の定着】</p> <p>集団行動を徹底して行わせる。</p> <p>各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。</p> <p>毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に俊敏性と柔軟性が大阪市平均より劣るので、その能力を高める。</p>	
<p>② 【言語力の育成】</p> <p>生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあえる学習を取り入れる。集団や自分に適した課題解決のために、ワークシートを用いて解決方法を考えさせ、毎時間振り返り、生徒たちの前で発表させる時間を1時間に1回以上つくる。</p>	
<p>③ 【個に応じた学習指導】</p> <p>習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。</p>	
<p>④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】</p> <p>体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。</p> <p>体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。</p>	
<p>⑤ 【体力向上の推進】</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「反復横跳び」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。(大阪市平均を上回る)</p>	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点⑧ [技術・家庭]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>① 【基礎学力の定着】 定期的な小テストを3回以上実施し、平均正答率を70%以上にする。 振り返りシートを活用し、知識の定着、新しい発展した学習を育む。</p>	
<p>② 【言語力の育成】 実習レポートまたは発表を年間3回以上取り組み、課題を解決するための考え方や工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。</p>	
<p>③ 【個に応じた学習指導】 実習時的新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛け等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。</p>	
<p>④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定するなど、学習をより身近なものへと活用する自主的な学習習慣の定着を図る。</p>	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (2) 教科の重点⑨ [英語]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストを定期的に行い、再テストで知識の定着をはかる。	
② 【言語力の育成】 英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行い、パフォーマンステストを実施する。C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。	
③ 【個に応じた学習指導】 習熟度別学習課題を作成し、課題に応じた学習支援を行う。	
④ 【自主学習習慣の定着】 毎時間プリントなどの課題を与え、授業内にその課題への取り組みを確認する。また、取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】 学級内習熟度別授業を実施し、ボトムアップをめざす。	

## 現状と分析

次年度への改善点

## (3) 生活指導部

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>① 【小中一貫教育の推進】          　9年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。</p> <p>指標：連携行事（中1情報交換、体験学習、部活動体験学習）の実施          　教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等）を2回実施          　教員相互授業参観を3回実施</p>	
<p>② 【規範意識の向上】          　「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。          　身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。          　体罰根絶への指導体制の確立、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施</p> <p>指標：登校遅刻ゼロの達成、チャイム着席の定着、正しい服装の着こなしの徹底          　生徒会中心による「生徒議会」の実施（毎月）、          　「生活指導研修会」を実施する（4月+随時）          　生徒理解を深めるため教育相談を実施する（年3回+随時）          　体罰ゼロの教育活動を推進する</p>	
<p>③ 【防災教育の推進】          　「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。各種マニュアルを策定する。</p> <p>指標：火災、震災、津波訓練の実施、地域別の防災訓練、集団下校の実施</p>	
<p>④ 【不登校傾向生徒への対応】          　生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。          　日常的に情報の共有、共通理解を行い、生徒の心の変化を早期に把握する。          　生徒一人一人の状況に応じた、個別最適な対応。</p> <p>指標：週1回の主任会において不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。          　月1回の職員会議において全教職員と状況把握。          　ICT（連絡掲示板、共有フォルダ）を活用した生徒の情報共有と把握。</p>	
<p>⑤ 【健康に関する指導の推進】          　発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。</p> <p>指標：学級活動、保健体育の授業、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。（全学年3回）（外部指導者を含む）</p>	

現状と分析

次年度への改善点

## (4) 健康整備部

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>① 【健康教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美化委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気をつけるよう取り組んでいく。</li> <li>・美化委員会の活動を充実させ、生徒の美化意識向上に取り組む。</li> </ul> <p>指標：生活習慣アンケートにおける「朝、すっきりと起きることができる」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 60%以上にする。    生徒アンケートにおける「熱心に清掃に取り組んでいる」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。</p>	
<p>② 【食育の推進】</p> <p>食に関する知識と健康的な食習慣を身につけるための教育活動をすすめる。</p> <p>指標：生活習慣アンケート「朝食を食べている」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。食育通信を年に 12 回発行する。</p>	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (5) 道徳委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<p>①【道徳教育の推進】</p> <p>道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。</p> <p>生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。</p> <p>「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p>	
<p>指標：①道徳授業（年間 35 時間の実践）</p> <p>②教科書を中心とした読み物教材を活用した授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。</p> <p>③校内新転任道徳研修会実施（4月）</p>	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (6) 進路委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかつた B : 目標どおりに達成した  
 D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

取組内容（指標）	達成状況
①【 キャリア教育の推進 】  キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。 職業講話（1年）職場体験（2年）高校出前授業体験（3年）	
指標：年度末の校内調査において、「将来の夢や目標を持ってていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。	
現状と分析	
次年度への改善点	

## (7) 特別支援教育の重点

目 標： 社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携もより強化し、「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、安心できる学校をつくる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	
② 【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て、健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	
③ 【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い、好ましい人間関係を育てる。	
④ 【個別の教育支援・指導計画について】 本人・保護者の考え方や意向を充分にくみいれた「個別の指導計画」を作成する。また、中間評価・最終評価を行う。 「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす。	
⑤ 【研修について】 全教職員への特別支援教育研修を、年間1回以上実施するとともに、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。 特別支援教育委員会・職員会議等で、毎月1回情報交換を行う。	
結果と分析	
次年度への改善点	

## (9) ICT 委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかつた D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

取組内容（指標）	達成状況
<p>① 【ICT 活用の推進】</p> <p>新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。    ICT 活用の推進を行う。</p>	
<p>指標：ICT 研修を 3 回以上行い、必要に応じて研修を実施する。</p> <p>年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末や ICT 機器を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 85%以上にする。(R6 : 81. 4%)</p>	
<p>② 【機器管理】</p> <p>ICT 機器や、生徒用端末の確認、整理をする。</p>	
<p>指標：生徒用の端末調査アンケートを年 2 回行い、並行して故障の有無を確認する。</p>	
<p>③ 【ホームページ】</p> <p>開かれた学校づくり及び地域コミュニティとして学校の様子を発信していく。</p>	
<p>指標：毎日 1 回以上更新を行う。</p>	
現状と分析	
次年度への改善点	